

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通)

事業所番号	2793100112		
法人名	医療法人真芳会		
事業所名	いきいきグループホーム太子橋		
所在地	535-0001 大阪市旭区太子橋3-2-8		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	令和元年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様への敬愛と受容を基本に、利用者様の安全性、快適性、活動性を追求していくよう努めております。また、職員間、他職種間のチームケアを大切にして利用者様の支援を強化していくように努めております。慢性疾患や医療依存の高い利用者様でも安心して暮らしていただけるよう環境を整備しております。常に医療関係者と連携を取れるように体制を整え、介護従事者にも医学的な知識の研修を行っており、ご入居さまや家族様にあんしんして頂けるように取り組んでいます。利用者様がこれまでの暮らしを続けて行く事が出来る様に、地域との交流の機会を定期的に設けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

淀川パークハウスという大規模マンション内の1階部分に、3ユニット27室が平面上にあるグループホームでワンフロア内を自由に往来できるので開放感がある。同じ建物内に幼稚園や放課後デイもあり生活感もありよい環境である。開設後5年であるが、利用者の声をよく聞き、意向や思いを知り個性を見極め、ひとり一人に合った個別の支援が実践できている。一時管理者の交代や職員の離職率も高かったが、現在は、ベテランの職員を中心に落ち着いて業務に励んでいる。利用者の病状等の急激な変化や事故については、救急車では受け入れ先に時間がかかった例もあり、現在は東淀川区の医療機関(24時間対応可)と連携し、すぐに病院の患者搬送車に駆けつけてもらうことができ、医療連携については安心である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口に理念を掲示するとともに、従業員には朝礼で読み上げ、理念の周知と共有をはかり指導している。	・私たちは利用者様を敬愛し受容します。 ・利用者様の貴重な一日を大切にし今日を安全で快適な活動性ある一日にします。 ・職員同士互いに労わり合い助け合います。 ・これまでの暮らしを続けられるよう地域との関係づくりをします。以上の理念の実践を目指している。地域や利用者、家族への浸透が今後の課題である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月、地域で行われている、ふれあい喫茶や放課後ディサービスとの交流の機会を設けています。	ふれあい喫茶や放課後デイのほかに、団地内の桜まつり、夏祭り、花火大会などにほぼ利用者全員が参加している。地域のボランティアはコーラス、ハーモニカ、フラワーアレンジメント、初釜などの訪問がある。同じ建物内の幼稚園との交流が途絶えているので再開したいとのことであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者研修などの養成講座などを受講していただき、その教材を題材にして話合ったり、研修レポートを書いたりして認知症の理解を深めるように努めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告をし、その評価や意見を参考にし、サービス向上に向けて努力しています。	参加者は町会長、民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族で規定回数開催されている。議事録は大阪市の様式に従って、報告や課題、意見などがわかりやすくまとめられている。参加する家族も固定しがちであり、今後は全家族への案内や報告書の送付を検討されたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所生活支援の担当者とは毎月連絡をとり、ご入居の方々の状況を報告するなどし、協力体制がとれるように努めている。旭区のグループホーム連絡会に区役所の介護保険課担当者を招き意見交換をおこなっている。	グループホーム連絡会は3か月に一回あり、管理者と計画作成者も参加し、区の職員と顔見知りになり協力関係を築く機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむおえない理由がある場合以外を除き、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。身体拘束禁止の研修を行っている。	研修は法人主催のものに代表が参加し内部には伝達講習している。玄関は閉めているがユニット内は自由に往来できる。ドアの開け閉めには風鈴がなるような工夫がしてあった。現在拘束事例はない。身体拘束適正化の制度の改正については確認の必要がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待がないように常に取り組んでいる。また事業者内においても法人の趣旨従業員全員が共有し虐待防止に徹底的に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、実際にあんしんサポート相談員や成年後見人様との交流にしかたについて生かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用契約時に、入居契約書ならびに重要事項説書にて十分な説明を行っており、理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所されている時は管理者や計画作成者がなるべく要望などを伺うように努めている。また利用者様や家族様の目につく所に意見箱を設置し、要望が反映されるように会議を開き、周知徹底に努めている。	家族の来訪は個人差があり、疎遠なケースでは電話報告が主である。要望があれば申し送りノートで共有している。通信は3か月おきの「太子橋だより」がある。	管理者の交代回数が多く、家族との信頼関係構築が課題である。通信の内容、個人別の報告、家族会など、良い方法を検討して、相談や要望、意見などが表れやすい関係づくりに取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従業員の意見や提言は、その都度聞きフロア会議や全体会議などで取り上げ運営に反映できるように努めています。また引き継ぎノートなどで情報の共有しています。	フロア毎の会議を月1回行っており、運営とケアについて話し合っている。全体会議は以前はあったが、現在は休止中で、再開を目指しているとのことであった。個人面談は必要に応じて行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準やモチベーションの相関を考え、常に従業者が前向きに働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	従業者この力量や経験値は常に把握しており、法人内外での研修受講の機会をもたせておりスキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭区グループホーム連絡会を通じ、同業者と交流する活動を通じ、サービス向上の為の取り組みに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様のおかれている現在の状況を踏まえて不安や要望をこまめに耳を傾け、ご満足頂ける様な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が来所の際は常に意見やご要望を聞き、その内容をサービスに反映出来るように努め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がその時点での状況を踏まえてどのようなサービスが必要であるかを含めて総合的な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側の一方的な支援でなく、可能な限り残存機能を活かし、職員と共に一緒に生活できるよう、関係づくりに努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族さまには常に今の状況を報告しており、またご本人と家族の絆が切れないよう、定期的なご来所を促して、ご本人様を支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも気軽に訪問できるよう環境づくりに努めており、もようしなどにも家族様にも一緒に参加してもらう様に促し、関係が途切れないように努めている。	入所前の自宅訪問や本人、家族、サービス担当者からの情報でそれまでの生活状況をつかんでいる。家族縁者のほか知人の訪問もある。多くの人の馴染みの場である近くの千林商店街にお連れしたいとの希望が職員から出していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場であるため、常に協力していただき、関わり合い、支え合いが出来るように常に配慮に努めている。共同生活のなかで役割、生きがいをもてるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了したあとも、関係性が途切れないように必要に応じ、相談や支援をうけて頂けるような体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に個別対応の方向で支援しており、個々の人格、要望を把握し尊重するように努めている。ご本人様の暮らし方の希望、意向に気が付いた時には情報共有ができるように努めている。	ひとり一人の話をよく聞いてその心に寄り添うことを大切にしている。意思伝達が困難な人は家族と相談して本人の思いを推察して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	従業者は、常に情報共有をはかって支援に努めるとともに、会合の場なども有効に活用し、個々の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のひとりひとりの生活を把握し、気づきがあればその情報を職員全員で共有し、同じ方向に向かって支援をするように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人に携わる関係者と話し合い現状のニーズに適合した介護計画の作成に努めている。	利用者ごとに居室担当を決めており、その職員が作成した原案をもとに、3ヶ月ごとに計画作成者がモニタリングを行っている。モニタリングと毎月のカンファレンスをもとに長期計画1年短期計画半年の計画書で6ヶ月ごとにサービス担当者会議をして再作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は職員同士で常に共有し必要に応じそのつど介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況によって生じる事に対しその都度話し合い、柔軟な対応した支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し、地域との関わりを多く持ち、地域資源を有効に活用できる機会を模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様およびご家族様の希望に配慮しつついかなる場合においても適切な医療が受けられるような体制を整えている。	かかりつけ医については、本人や家族の意向を優先しているが、入居期間が長くなってくると家族の大きな負担となり、現在は殆どの利用者はホームの協力医療機関をかかりつけ医とし、週2回の訪問診療を受診している。皮膚科、眼科等の専門科受診は原則家族が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の変化は細かいことであっても、年間を通じてオンコールにて看護職と連絡がとれている、医療連携体制を敷いており、医師、看護師から常に適切な指示が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携の提携病院をはじめ、近隣の病院関係者とは日々、入退院に備えて、連携をはかっており、ご利用者様の急変時に備えられるような関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医た看護職とも十分に協議し、その都度、最善な対応ができるよう体制を整備している、また、看取りに際しても適切な対応ができるよう、研修を行い、チームとして取り組んでいけるように努めている。またご家族様との連携も密にしてひとつひとつ同意を得ながらケアを行っている。	ホームで策定した「重度化した場合の対応に関する指針」を契約時に本人や家族に説明し、納得を得ている。かかりつけ医の判断と家族の意向及びホームの方針が揃えば、ホームで看取りを行う方針である。そのため、職員の研修も実施し、過去に3例の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限必要な医学的知識の習得は法人内た事業所内の研修において定期的に行っており、急変や事故発生時に迅速に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルは事業所に備え付けており、緊急時の連絡体制、避難体制の周知徹底をしている。避難訓練を実施し、昼夜問わず適切な避難た出来る様に取り組んでいる。	ホームで火災が発生したケースを想定し、年2回(消防署立ち合い、夜間想定)避難訓練を実施している。しかし、たとえ訓練といえども近隣住民の参加はまだ得られていない。	自然災害時には、職員だけの力では全利用者の避難は大変なので、地域住民の訓練参加は必須である。運営推進会議や日頃のお付き合いを通じて是非参加の依頼が望まれる。又、大災害では避難生活が長引くので、近くの福祉避難所の確認も必要である。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	従業員には常に、個人の尊重に配慮した声掛け対応を心掛けるよう促している。又定期的に接遇の研修を行い対応がおろそかにならないように努めている。	尊厳の心を保ち、たとえ認知症が重くなってもプライドやプライバシーは最後まで残ることを意識し、接遇の研修を繰り返し実施している。しかし、職員も人間であり、たまにスピーチロックをすることもあるので、その場で職員がアドバイスできるチームワークの育成も心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、ご本人様の思いや訴えを常に傾聴しながら、その思い実現の為表現したり自己決定ができやすいような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも個人対応を基本として取り組んでおり、個々のスペースに合わせ、過ごしていただけるよう、柔軟な対応で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や好みは、ご本人様の希望に沿ったものを選んでもらい、着用していただけるよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事に準備や片づけをして貰っており、男女問わず出来る方には包丁を使ってもらったりして、調理にも参加して頂き、ご自宅で生活されておられた時のような環境づくりに努めている。	米飯やみそ汁はホームで作っているが、朝、昼、夕食のおかず類は冷凍パック(クックチル)を利用している。食事レクとして月に2度は利用者の嗜好を参考にしたメニューを作り、食材も利用者同行で購入に出かけ、下ごしらえから調理・盛り付けまで利用者が参加し、楽しんで作っている。昼食を一緒に頂いたが明るい雰囲気であった。利用者は得意な分野で役割を決めて参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や栄養バランスなど定期的に管理栄養士と相談し、個々の状態や摂取量が適切かどうかを把握し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っており、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを介護記録で把握しており、可能な限りトイレで排泄して頂けるように支援している。安易にオムツを使用せず、トレーニングパンツやパットを使用したり、それも不要な方には布パンツをはいて頂き、トイレでの排泄がけできるように支援している。	家族にあらかじめ利用者の排泄の状態を聞いておき、排泄チェック表や利用者固有のサインも見逃さず、各利用者の排泄パターンをほぼ把握し、毎食後等早めのトイレ誘導を心がけている。夜間については、定期的に起こして声掛けしているが、利用者が嫌がる場合は睡眠を優先することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた食事摂取や、日々の運動を促している。また薬剤に頼らざる負えない時は主治医や関係者の指示により、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めているが、希望により日中はいつでもご利用できるように、臨機応変に対応している。利用者様の希望に沿って湯船に浸かっていただくことを原則としてしている。	原則週2回、午前の入浴を支援しているが、利用者の状態によって日を変更する場合もある。カラスの行水型や長風呂の方もおられるが、自由に楽しんでもらっている。温泉の湯とか季節感を感じるゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。職員と1対1になる場であり、楽しい会話となり昔話に花が咲く時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様が一番過ごしやすい生活リズムが確保出来るよう配慮するなど、臨機応変な対応に努めている。日中でも利用者様の状態が良くない場合には、ソファーやベットで休息して頂くように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者様の個々の薬の目的、副作用などはおおむね理解した上で、服薬支援に努めており、日々の状態変化の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やニーズに沿った支援を心掛けており、生きるよる子募や張り合いのある日々を過ごせるよう、配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩を心掛けており、本人の希望に沿って外出の機会を確保している。また季節の催しや地域の催しに積極的に参加できるように支援している。	日常的な散歩は、利用者にとって生活リハビリになるので、大切な支援と捉え、できるだけ頻回の散歩を支援している。パーク内の散歩や買い物、季節を感じるための初詣、お花見、夏祭り見物や紅葉見物も必ず実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況を把握し、それぞれに応じた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々のご利用者様の希望により、臨機応変に適切な対応に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が共有フロアーには季節に応じた飾りつけをしたり、ソファーだけでなく希望の応じて畳を敷くなどしたり、心地よい環境づくりに工夫している。室温、湿度は常に快適に保つようにしている。アロマを利用したりリラックスできる環境づくりに取り組んでいる。	3ユニットが横に並んだ非常に細長い建物であるが、廊下やリビング兼食堂は広く清潔感がある。廊下の壁面には殆ど何も貼らず、それが落ち着き感を感じる。リビング兼食堂には、この時期季節感を感じる節分の鬼やお雛様が混在していた。利用者同士がくつろげるコミュニティスペースも確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はいつでもご十に過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にはご本人様が使い慣れた馴染の物を出来るだけ持って来て頂き、ご本人が快適に暮らしていただけるよう、工夫している。	各居室の表札として、きれいな花2輪とともに部屋番号と利用者名が掲示されている。部屋を間違えように大書の表札の部屋もあった。室内も家族の協力で、入居者の自宅での生活の延長感を出す工夫も見られる。使い慣れた家具や日用品を持ち込んでその人らしい部屋となっている。転倒防止のためにベットではなく、床に布団を敷いている部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には常に配慮しており、自立した生活が送れるよう、配慮している。		